明治丸のマスト、ヤード及びバウスプリット復旧する

明治丸ＶＣ、明治丸修復ＷＧ　望月二朗（東船大 TN11）

明治丸（第二期）修復工事は、大林組が工事全般の管理を行い、各協力会社がそれぞれ専門分野の工事を分担して実施してきました。平成26年10月21日現在の、主な工事の進捗状況について簡単に報告します。

Ⅰ．帆走艤装工事

バウスプリット、ジブブーム、マーチンゲール、各マストのトップゲルンマスト及びトップマストは鋼製（仮設）に替えて更新した。

各マストのヤードは、ロ－ヤルヤード、ゲルンヤード、アッパートップスルヤード及びメインマストを除くロアートップスルヤードを鋼製（仮設）に替えて更新した。各マストのピンレール及びファイフレール等の修理が終了した段階で、ブレース等の動索をピンレールに止めて操帆装置の修復が完成する。

＊ミズンマストのガフ・ブーム及びスパンカーブームは木製（米松材）で更新する。

Ⅱ．木甲板工事

修復前の甲板舗装材を撤去し、錆打ち、研磨の上、５㎜のウレタンを施工し、チーク材を張り付ける。チーク材は120㎜巾×65㎜厚を使用。上甲板面積445㎡。

現在、甲板構造物の施工部等を除いてチーク材を張り付けている。構造物構築が完了した段階でホウコン打ちカンナがけ、仕上げのシーリング打

マスト・ヤード・バウスピリトが復旧

ちを行う予定である。鋼甲板の腐食は、配水管取り付け部及びキャプスタン下部を除いて殆ど見られなかった。

Ⅲ．上甲板構造物等修理工事

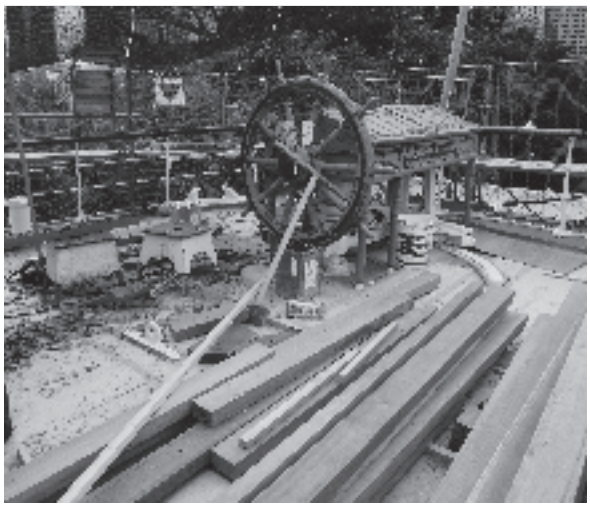
甲板室等は、修復前の形状等を正確に復旧するため、解体調査（採寸等）し、図面を作成して施工する。材料はタモ材の積層材を使用する。当工事については、特に、腐食防止対策が重要で、甲板との接続部の処置について、施工方法の工夫やシール材等について専門メーカーから資料を入手して検討中である。現状はデッキコーミングが室壁の内側に施工されているため、水の浸透が避けられず、木材の腐食が進んだものである。今回の工事では、出入り口扉の開口部を除くスカイライト等は、固定して水の浸入を少なくする処置が施される。

Ⅳ．その他

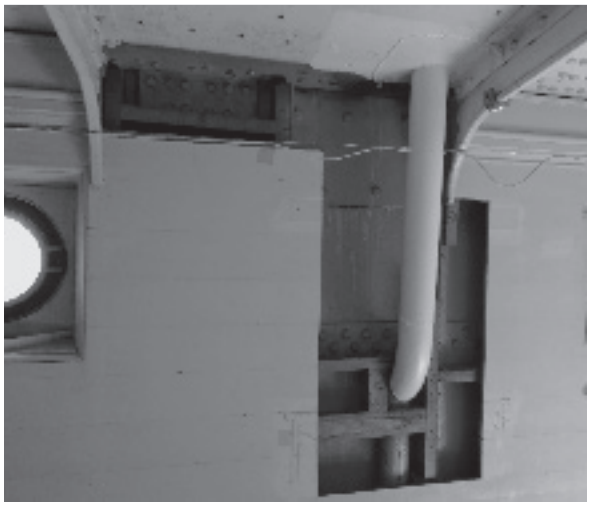
マスト、ヤード等の旧部材（予備も含む）の保管は、文化庁と協議して決定するが、一部は船内に保管し、新設予定の資料館にも保管する予定である。保管不可能な部材については、図面等の資料を作成して保存することとなっている。

以上が現在の修復工事の概要ですが、マスト、ヤードとバウスプリットが修復（一部仮索止め）され、明治丸のシップ型の姿が現れてきたので、紹介する次第です。

当修復工事の完成は、今年度末（平成27年３月）の予定ですが、10月現在全体の工程の約半分が終了したところです。



上甲板船尾



上甲板下面

マスト取り付け前